

# ENGINE 01

エンジン No.220  
Jan.2019  
定価  
1080yen

エンジン初のスウェーデン・ブランド、巻頭大特集！

いま、ボルボに乗りたい  
これだけの理由。

海外試乗：新型ボルボS60／新型ボルシェ・パナメーラGTS  
& GTSスポーツツアリスモ／新型BMW Z4 & 8シリーズ

海外発表：マクラーレン・スピードテール／新型レンジローバー・イヴォーク

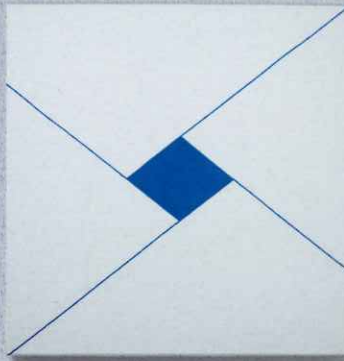
国内試乗：新型メルセデスAMG C63 & CLS53

ファッション：豊かな時間を贈る、ギフト。

時計大特集：アートと時計の“饗宴”







額田宣彦《diamond-6》2015年  
 白亜、テンペラ、アクリル、油彩、麻布  
 41×41cm  
 バウハウスの教え子であるマックス・ビルのデザインに合うのは、ミニマルで直線的な平面作品だろう。選んだのは愛知県を拠点に制作を続ける額田宣彦（1963年生れ）のこの作品。額田は、90年代半ばより、ジャングルジムのような格子を描くスタイルを確立。作家の恣意的な表現を取り除き、単色の線と面で構成された自律的な絵画で知られる。端正なデザインの時計と、禁欲的な額田の作品が美しく交差する。



## JUNGHANS

ユンハンス

### 日本人の知らないデザインの本質

日本人は「デザイン」という言葉を「色と形」と誤解している。「デザイン」とは本来「設計」。だから「デザインはいいけど使いにくい」という感想はあり得ず、使いにくいものはカッコ良くてもデザインが悪いのだ。そう考えるとマックス・ビルの手がけた腕時計は美しさはもちろん、「時刻を表示する」という時計本来の機能をしっかり果たす、優れた「デザイン」。彼を育んだのは、装飾的要素を排して機能性を追求する造形を提唱したドイツの美術学校バウハウス。だからマックス・ビルがデザインし、1962年に発表された腕時計は半世紀以上を経た今でも少しも古さを感じさせない。この簡素を極めた造形美に、単純な線と面で構成された額田宣彦の作品は最上のマッチング。この絵画作品をそのまま腕時計のダイヤルに取り込んでも、おそらくなんの違和感もないだろう。（名畑）

#### マックス・ビル メガ

マックス・ビルならではの美しく機能的なデザインを継承しつつ、電波を受信して時刻を自動的に制御する電波時計機能を搭載した実用度満点のモデル。3時位置に日付表示窓をセット。針とインデックスは番光入り。電波クォーツ。ステンレススティール、ケース直径38mm、30m防水。税別12万8000円。時計の問い合わせ＝ユーロパッション Tel.03-5295-0411